

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800120	事業の開始年月日	
		指定年月日	
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター荏田東		
所在地	(224-0006)		
	横浜市都筑区荏田東4-8-23		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成29年4月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ニチイケアセンター荏田東は開所11年目をこの春に迎えました。当ホームは市営地下鉄センター南駅より徒歩10分の閑静な住宅地の中にあります。ホーム前には都筑中央公園、遊歩道があります。毎日遊歩道を散歩しながら、四季折々の移り変わりを楽しんでいます。それ以外でもお客様が笑顔で過ごせるように、積極的にボランティアを受け入れたり、近隣の小学校の児童とも季節ごとのイベントで関わりを深めています。開所時からのお客様や職員が居るので、ホームというより、温もりのある家庭という感じで皆様過ごされています。その人らしく生活することを大切に、出来ることは一緒に行いながら、支えあう介護に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年11月25日	評価機関 評価決定日	平成29年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】

この事業所は、横浜市営地下鉄センター南駅から徒歩約10分の住宅地にあり、窓からは緑豊かな都筑中央公園の光景が眺められる。利用者は春夏秋冬の季節を感じながら、日々の生活を楽しむことができる。

【理念の実践】

職員は、「明るい笑顔、愛する心を大切にします」「感謝の気持ちを大切に、真心を込めて介護します」「プライバシーを守ります」という理念を基本にサービスを展開している。笑顔で接することにより相手も笑顔になり、感謝の気持ちを持って真心を込めて支援を行うことで、相手も同じように思い、和やかな気持ちで暮らすことが出来るという信念を持って支援している。介護に当たっては、利用者の尊厳や、プライバシーの尊重に気を配っている。

【自立支援と日常生活の活性化】

ホームでは、心身の自立と活性化に力を入れている。毎朝起床後は、着替えなどをして身支度を整え、リビングでお茶を飲みながらくつろいだり、新聞を読んでたり、日記を書いたり、したいことをしながら生活のリズムをつくっている。

天気の良い日の午前中は、外気を浴び季節を感じながら近隣の公園などを30分ほどかけて散歩することを日課としている。外食や遠方への外出の機会も多い。

午後には、職員と一緒に壁に掲げる季節の飾り物や折り紙、小学生へのクリスマスのプレゼントなどを手作りしている。食事の際は、調理の手伝いや後片付けなど、それぞれが出来ることをやっている。利用者が常日頃から達成感や生きがいを感じながら生き活きと暮らせるように支援している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター荏田東
ユニット名	そよ風

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター荏田東
ユニット名	わかば

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は施設内の分かりやすい場所に掲示してある。理念を大切に日々のケアに取り組んでいる。内部研修や会議、日々のケアを通じて職員と理念の共有をしている。	事業所の開設時に管理者と職員で考えた理念は、リビング、事務室、職員休憩室などに掲示されている。職員は理念を認識し共感して、利用者が笑顔で過ごすことができるよう、真心をこめてケアサービスを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の踊りや歌などのボランティアを受け入れたり、散歩や外出時など地域の方々への挨拶など積極的に行なっている。	町内会に加入し、地域の防災訓練、運動会や祭りに参加している。近隣の小学校の児童が、社会科見学、卒業記念、クリスマス会などで来所し、利用者との交流を深めている。「こども110番の家」を引き受けている。開始以来の踊りのボランティアが、傾聴ボランティアとして継続して来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からグループホームのことや認知症についてのことを聞かれたり相談に乗ることが多い。気軽に相談の場として利用して頂けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではヒヤリハットや事故報告、お客様の普段の様子や支援内容などわかりやすく全て話している。	運営推進会議は、2か月に1回開催し、民生委員、自治会長、家族代表、利用者代表、ホーム職員が参加している。事業所の運営や行事などの活動状況を報告し、出席者との質疑応答を行っている。	区の担当職員、地域包括支援センター職員への呼びかけを継続し、運営推進会議への参加が実現することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の担当の方へ不明点などお聞きしたり相談している。	都筑区高齢・障害支援課には、運営について分からないことを聞いたり、相談したりしている。ホームの空き情報を伝えてくれることもある。区の主催する感染症の研修に職員が参加している。横浜市グループホーム連絡協議会の都筑ブロックに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や内部研修で、身体拘束をしないケアについて学んでいる。夜間以外の門扉施錠は一切行っていない。	職員の身体拘束排除の研修を実施している。車椅子利用の方は、ソファやベッドで休んでもらったり、食事の際に椅子に移乗したりしている。玄関、ユニット入口は夜間以外は施錠していない。玄関脇の事務室やリビングで見守りを行い、外出したい様子があれば、職員と一緒に付き添って出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修で、身体的、精神的虐待のないように日々のケアに努めている。ホーム会議の場でケアの話し合いでも様々な視点から話し合い、虐待のない取り組みを行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学んできたことをホーム会議などで権利擁護について話し合っている。成年後見制度を利用している方も1名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は重要事項説明書を用い、詳細に説明している。特に不安や疑問点がないか確認しながら行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様やご家族様が気軽に要望や意見を出せる雰囲気作りにも努めている。	家族の意見や要望は、来訪時や電話連絡の際に聞いている。家族会は必要に応じて随時開催している。外出の要望が多くあり、祭りや紅葉狩り、外出に出かけるなどしている。直近の開催では半数の家族が出席し、看取りについての説明を行った。法人が行っている顧客満足度調査の意見を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議にて職員の意見や提案を聞いている。話し合いを行い実践に努めている。	管理者は、会議や日常の現場で、職員が意見や希望を言いやすいように取り組んでいる。悩んでいる様子の職員に声をかけたり、時には一緒に食事をしたりして話を聞いている。職員の提案で、利用者が歩行器に馴染めるように、歩行器にニックネームを付けたり、家族からのメッセージをつけるなどの工夫をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の向上心や普段の取り組み姿勢を観察し、資格取得の支援等やる気が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修を行いスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を通じて、研修会や懇親会に参加し交流を持てるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時、ご本人への聞き取りにより、不安や要望を確認し、可能な限り行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談も含め丁寧に説明を行い、ゆっくり時間をかけ話を聞いている。不安なことや要望などを話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、ご家族の状況などを確認し、必要に応じ他のサービスについての説明なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を把握し、家事などを共にしながら、お互いに助け合い、支え合いができる関係性を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や感情など必要に応じて報告し、相互に相談し合える関係になるよう努めている。いつでも不安なことは相談していただけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでに大切にしてこられた友人や知人との関係が途切れないよう、訪問の受け入れや電話、手紙のやり取りなどの支援を行なっている。	入居前から新聞を読む習慣がある方は、継続して購読してもらっている。知人や友人からかかってきた電話の取り次ぎや、本人からかけることを支援をしている。馴染みの人や友人が来訪した場合は、リビングや居間に案内し、湯茶で接待している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がうまく関わられるように職員が間に入りながら良い関係づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも、相談などされた時は、積極的に関わりを持ち、これまでの関係性を大切にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族やご本人に話を聞き、希望や意向を把握している。意思疎通がが困難な時などはご家族とカンファを行い、ご本人の意に沿えるよう模索している。様々な視点から捉え、ご本人の立場に立って考えるよう努めている。	利用者が、夕食後に皆と一緒にお茶を飲みながら会話しているときに、会話に加わって思いや意向を把握している。意思の疎通困難な方の意向は、理念に立ち返り、明るい笑顔と感謝の気持ちを大切に、真摯な態度で丁寧に話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や相談員、ケアマネなどから情報を収集してアセスメントに残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段と異なった行動や発言など記録に残し、職員間で情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングにて日々の気付きなどを話し合いながら、現状にあった介護計画を作成している。ご家族との話し合いの場を作り、ご本人の状態や変化に応じて見直しなどしている。	介護計画は、個別の課題やニーズを基に作成し、ファイルにして休憩室に置き、職員が閲覧している。3か月または6か月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しをしている。急な状態の変化があれば随時見直す場合もある。「受診・健康管理記録」で医師、看護師と職員が情報共有し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の会議で一人ひとりの状態を確認し、プランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の散歩で地域の方との交流が増え、お花や野菜を頂いたりして少しずつ地域に根ざしている。出来るだけ柔軟な支援が出来るよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事などに参加し、地域に関われるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医があれば継続できるよう支援している。ご本人、ご家族の希望を取り入れながら情報を提供し早期発見、早期対応に努めている。	利用者全員が、事業所の協力医の月2回の定期往診を受けている。訪問看護師が週1回来訪し、健康管理などを行っている。近隣の歯科医と歯科衛生士が週1回訪問し、口腔ケアを行っている。義歯の調整や抜歯の際は、歯科医へ通院している。訪問マッサージを利用している方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、健康管理を徹底している。医療連携機関の看護師とも来所時情報を共有し、相談や指示をおおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、医療機関とも連絡を密にとり、情報交換している。職員も入院先を見舞い、状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご家族の意向を確認しているが、重度化する可能性が生じた場合、早い時点でご家族の終末期に対する考えを聞いている。医師、看護師、職員と話し合い、本人の意向に沿えるようにしている。	契約時に「重度化した場合の意思確認書」を説明し、家族会でも看取りについて説明を行った。ホームで最期を迎えたいという希望があれば、家族、医師、看護師、管理者が話し合い、意思を統一してチームで支援している。看護師と24時間連絡できる体制である。看護師が講師となり、看取りに関する研修を実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	なるべく早く医療に繋がれるように事務所、キッチン、休憩室などに急変時の対応マニュアルを掲示している。全職員に周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て消防署の指導を受け行っている。ご近所の方々の協力が今後の課題です。	防災訓練は年3回、火災発生時や夜間想定、救急救命の訓練を行っている。夜間の緊急時には、職員が5分以内に3名、10分以内に2名駆けつけられる。災害備蓄は、3日分以上の飲料水や食料品、備品を2階に保有している。利用者ごとに必要な防災用品をバッグに詰め、事業所の外階段のボックスに保管している。地域の消防団などに協力を依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、本人の嫌がる声かけや対応をしないようホーム会議やミーティングで話し合い対応している。	管理者は、外部で職員同士が食事する際に、利用者の個人情報に関する話をしないように伝えている。利用者への声かけや誘導は、命令口調や指示的にならないよう職員間で注意をし合っている。リビングで使う書類は伏せたり、テーブルの下に収納している。個人情報を含む書類は、事務所の書棚で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう、会話の中でさりげなく支援するように努めている。可能な限り本人の自己決定を尊重出来るよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事時間など共同事項以外は居室などで自由に過ごして頂いている。就寝時間なども自由にお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望にあわせてヘアスタイルを美容師に伝えたり、ヘアカラーやお化粧品なども楽しみながら行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の出来る事を活かしながら、お客様と一緒に食事作りや片付けを行っている。	職員が利用者の希望に沿って献立を作成し、食材を購入して調理している。利用者の状況に合わせ、食材を細かくしてとろみをつけるなどの対応をしている。職員は、見守りや声かけ、食事介助などを行っている。事業所の菜園で収穫した季節の野菜を提供している。庭でバーベキュー大会や流しそうめんを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量などは記録して確認している。ご自分で召し上がれない方は、介助を行い、召し上がりやすい食事形態にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。月1回歯科往診と週1回の歯科衛生士の口腔ケアを受け、口腔内の異常を早期に発見出来るように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレでの排泄が出来るようにしている。意思表示の難しい方も表情や行動から声かけ誘導している。気持ちよく排泄して頂けるように努めている。	職員は、排泄パターンを把握して、きめ細かく声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けて取り組んでいる。失敗した場合は、浴室のそばのトイレに誘導して羞恥心に配慮して手早く対応している。夜間に起きない場合は、声かけして誘導することがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操やヨーグルト、オリブオイル、牛乳などの乳製品を食事後召し上がって頂いたり、排泄時お腹のマッサージや水分摂取を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本週2回の入浴を行なっている。体調や様子、表情などから、ご本人のタイミングに合わせて入浴支援を行なっている。	入浴は原則として週2回、午後としているが、天候が悪い場合は、散歩に出かけないため、午前に変更することもある。浴槽の湯は、入浴の都度入れ替えている。菖蒲湯や柚子湯で季節を感じてもらっている。ヒートショック対策として暖房器具を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりお好きな時間に就寝して頂いている。日中も1時間位、休んで頂いている。不穏時などは、ゆっくりお話を傾聴し、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は勉強会等を通して、お客様の服薬の内容を把握している。薬剤が変更、追加などの際は申し送りなどで周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、嗜好を把握し、充実した時間が過ごせるよう支援している。家事仕事、掃除、カラオケなど充実した時間を過ごせるように努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や外気浴を天気の良い日は毎日行っている。地域の行事などにも積極的に参加している。	天気の良い日は毎日、午前を中心に心身の活性化を図るため近隣の公園に散歩に出かけている。遊歩道を歩いて区民祭などに行くこともある。車椅子使用の方も職員が付き添って出かけている。その日の体調などによりベランダでお茶を飲むこともある。介護タクシーを使用して、季節の花見や回転寿司などの外食に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームでお預かりしている。小額の金銭をご自分で管理されている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでも電話をかけられるように支援している。年賀状、暑中見舞いなどご本人の思いに沿うよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間作りに努め、季節を感じて頂けるよう四季折々の飾りつけを行なっている。また毎日掃除を行い、臭いや温度には十分注意している。	共用空間はバリアフリー構造で、リビングは南向きで日当たりがよく明るい。壁に、利用者と職員が共同で作った季節感のある作品が飾られている。廊下には、職員が利用者ごとに文面を変えて贈った「あじさいの詩」や利用者の「今年の抱負」、近隣の小学校から贈られたクリスマスプレゼントに対するお礼のカードを掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで談話出来たり、居室で一人になられたり、思い思いに過ごされている。居室に招きいれ、居室で談話される方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、仏壇を持参されていたり、馴染みの品物があることで安心感を持ち、穏やかに過ごして頂けるように努めている。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、カーテン、スライド式ハンガー、加湿器が常備されている。利用者は、使い慣れたタンス、椅子やテーブル、仏壇を置き、写真やぬいぐるみを飾って住み心地良くしている。居室担当職員が衣替えや清掃を手伝ったり、手作りの表札を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口にネームプレートをつけたりして分かりやすくしている。安全に移動が出来るよう家具の配置を工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ニチイケアセンター荏田東

作成日

平成29年3月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議が定期的に行えない	2ヶ月に一度必ず行なう	確実に1年間の予定をたて事前に伝える。	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。